

大飯発電所3号機プラント排気筒からの僅かな希ガスの放出について

このことについて、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所4号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力 118.0万kW）は定格熱出力一定運転中のところ、平成19年10月24日12時30分頃、運転パラメータを確認していた発電室員が、一次冷却材系統にある体積制御タンク^{*1}の水位が若干低下傾向にあることに気づいた。

直ちに運転状態のパラメータや体積制御系統での操作実績等について調査したところ、4号機の一次冷却材定期サンプリングとして、本日9時20分から9時25分にかけて、試料採取室内（3・4号機共用設備）にあるサンプリング採取用弁を開操作していたことが判明した。

このため、当該弁を確認したところ、開状態であり、当該弁下流側にあるホース部から試料採取フード内のシンク（流し台）に一次冷却材が流れ出ているのを確認したため、直ちに当該弁の閉操作を行い、13時に流出は停止した。

当該弁から流れ出た一次冷却材（約320ℓ）は、全て試料採取フード内シンクのドレン系統で回収されており、試料採取室への漏えいはない。

しかし、フード内はわずかな負圧状態を維持しており、フード内の気体は3号機プラント排気筒から連続放出されているため、当該弁が開状態であった期間中、4号機の一次冷却材中に含まれる放射性気体廃棄物（希ガス）が環境に放出されたと評価された。この放出量について、3号機プラント排気筒モニタの指示値から評価した結果、約 5.0×10^8 ベクレル^{*2}と評価されたが、この放出放射エネルギーは、保安規定に基づく大飯発電所の希ガスの放出管理目標値（ 3.9×10^{15} ベクレル/年）に比べ十分低く、周辺環境等への影響はない。

また、大飯発電所周辺に設置している環境放射線監視用モニタリングポストの指示値にも有意な変化は認められない。

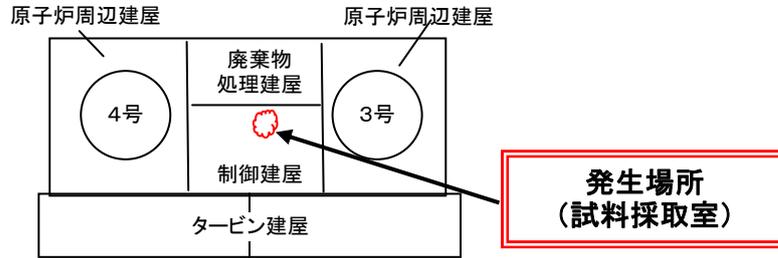
※1 体積制御タンク：化学体積制御系の設備で、原子炉容器や配管内の一次冷却材の量を調整するためのタンク。

※2 大飯3号機の放射性気体廃棄物（希ガス）年度放出実績では、H18～H17年度は検出限界未満。H16年度は 4.0×10^{11} ベクレルである。

問い合わせ先(担当：三木)
内線2354・直通0776(20)0314

大飯発電所3号機 プラント排気筒からの僅かな希ガスの放出について

発生場所



事象概要

